都道府県別賞一等

夢を繋げる生命保険

徳島県　鳴門教育大学附属中学校　三学年

坂部　七海

私は今、高校受験を控えた中学三年生の夏休みを過ごしている。何校かの高校体験学習に参加して、いくつかに志望校が絞られてきたところだ。高校の先には大学、就職がある。では、私は将来何を目指すんだろう。就きたい職業、なりたい自分。こうなったらいいな、と何となくは想像するが、「絶対こうなる！」というものではまだない。

私には五歳年上の姉が一人いる。今、大学二年生で、県外の大学に行っている。お姉ちゃんがしているからと、ピアノや水泳をあたりまえのように習いたくて、お姉ちゃんが楽しそうだから習字、バレエもしてみたくて。一番身近にいて、私にとってはついていくのがあたりまえの存在。そんな姉と離れて暮らすようになるなんて、あまり考えていなかった私はまるで一人っ子になったような生活に初めは戸惑った。県内の大学進学を考えていた姉は、ギリギリ志望校を学校に提出する時になり、「どうしても進みたい道があるから、お金はかかるけど、〇〇科のある△△大学に行かせて欲しい。」と両親に嘆願したらしい。県外で私立で六年間。両親共働きではあるが、「ごく普通の生活」だと思う。後から聞いたが、生活費も含めると、なかなかすごい費用になるらしい。

夏休みで姉が帰省していた夕食後、私たち家族のお盆、お正月の恒例行事であるボードゲームをしていた私は、

「今回は何になろうかなー。」

と盤を眺めていた。姉が

「将来何になりたいん？」

と私に聞いた。

「えー、まだわからん。」

と私は言い、姉にそのまま聞き返した。

「〇〇になりたい。だから大学でも必死よ！過去イチ勉強しよるわ。」

とちょっと笑いながら、でもリアルに教えてくれた。すると母が、

「してもらわないと困るわよ。自分に合った道でよかったね。」

とこれも笑顔で言った。そして父母は

「ほんまにこども保険に助けられたよなあ。」

とも言った。こども保険？何だろう。

「小さい頃から積み立てて、大学入学や成人した時などにもらえる保険だよ。万が一

の入院の保障もついているから、うちは入ってる。」
と両親が教えてくれた。他にも両親はいろんな保険に入っているらしい。そういえばボードゲームにも様々な保険が出てくる。とんでもない災難に見舞われるマスにとまり落胆していると、「生命保険に入っていれば一回休むだけでいい。」みたいなことがある。初めに入る時はお金がかかるから考えるが、安心を手にすると思えばいい。安心だけでなく、姉のように夢へのひと押しになるならさらに素敵だ。